

衆議院法務委員会ニュース

平成 25. 5. 29 第 183 回国会第 15 号

5 月 29 日（水）、第 15 回の委員会が開かれました。

1 裁判所の司法行政、法務行政及び検察行政、国内治安、人権擁護に関する件

・谷垣法務大臣及び政府参考人に対し質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

三ッ林 裕 巳君（自民）

- ・災害発生時に被災地に派遣されるDMAT（災害派遣医療チーム）の活動において、傷病者の治療の優先順位を決めるトリアージが行われるが、隊員の看護師及び救急救命士が重症度や緊急度を判断することについて法的根拠があるのか、伺いたい。
- ・DMAT隊員の看護師、救急救命士は、医師の指示を仰ぐことができない状況でトリアージを行うこともあり、トリアージについて法的根拠を付与すべきであると考え、見解を伺いたい。
- ・異常死の死因究明のための監察医制度の実施状況及び充実のための方策について、伺いたい。また、死因究明施策の推進に対する法務省の姿勢について、法務大臣に伺いたい。

枝 野 幸 男君（民主）

- ・司法試験よりも予備試験の受験者数が多くなり、また、法科大学院への入学者数も減少している状況について、法務大臣はどのような認識を持っているのか、伺いたい。
- ・予備試験経由の司法試験合格者には弁護士事務所からの引き合いも強いとの旨の報道があり、また、そのような空気が司法修習生などの一部にもあるが、こうした状況について法務大臣はどう思っているのか、伺いたい。
- ・国際的な企業の企業再生においては、海外からの資金が必要となる場合もあり、そのためには、我が国において、欧米先進国の制度と整合性がとれた倒産法制を整備する必要があると考えているが、法務大臣の見解を伺いたい。

辻 元 清 美君（民主）

- ・日本人と国際結婚をした外国人女性が、DV被害を理由に日本から子を連れ去っている現状について、法務大臣は、どの程度把握しているのか、伺いたい。また、

外国人のDV被害について、入国管理局及び警察庁は、実態をどの程度把握し、どのような対応をしているのか、伺いたい。

- ・自民党が平成24年4月27日に決定した「日本国憲法改正草案」において、家族は互いに助け合わなければならない旨を明記していることについて、このような道德規範を憲法に規定することは適当ではないと考えているが、法務大臣の見解を伺いたい。

田 嶋 要君（民主）

- ・国民年金法では受刑者は年金保険料を納付するか、免除申請を行うかどちらかしかないと思うが、見解を伺いたい。
- ・現在、受刑者の国民年金保険料の納付及び免除申請の手続はどのように行われているのか、伺いたい。
- ・将来、受刑者の無年金を減らすことの意味及び全ての受刑者に国民年金に係る手続をさせる重要性について、法務大臣の見解を伺いたい。

西 田 讓君（維新）

- ・刑法第 81 条の構成要件について、「行使させた」とあるのを「行使させる」に改正する必要があるのではないか、伺いたい。
- ・防諜の観点から、刑法から削除された旧第 85 条を復活させる必要があると考えるが、法務大臣の見解を伺いたい。

西 根 由 佳君（維新）

- ・石川県の教員採用試験で性的指向を調査する試験問題が出題されたことについて、調査・救済の状況を伺いたい。
- ・LGBT（ゲイ、レズビアン、バイセクシュアル、トランスジェンダー）に対する差別について、法務大臣の見解を伺いたい。
- ・臨床診断目的のためのMMP I・MINI-124（心理

- 検査の自動診断システム)を教員採用試験に用いないよう積極的な取組が必要と考えるが、見解を伺いたい。
- ・過去 20 年の法務局職員による印紙の着服事案について、件数、損害額及び回収不能額を伺いたい。

権 名	毅君 (みんな)
------------	-----------------

- ・ 刑事施設における不適正処遇事案に対し、どのような調査を行っているのか、伺いたい。また、今後、抜本的改革にどのように取り組んでいくのか、伺いたい。
- ・ 受刑者の処遇について、犯情が軽い者は海外の事例等を参考に検討し、犯情が重い者は抜本的な制度改革が必要と考えるが、法務大臣の見解を伺いたい。
- ・ 高齢受刑者の累犯及び出所直後に軽微な犯罪を犯して服役する受刑者により刑事施設がホテル化している事案の対策について、見解を伺いたい。